

## 令和4年度 あきたスマートカレッジ F講座内容報告

### F 東大史料編纂所協力講座 ～史料研究の最前線～

～史料編纂所の共同研究から～

東京大学史料編纂所の研究者が、様々な史料に基づく研究成果を直接県民のみなさんにお伝えする講座です。最先端の歴史学の成果に触れるまたとない機会です。

有料講座  
(1回440円)

| 日  | 時                                   | テ   | マ | 講                | 師     |
|----|-------------------------------------|---|---|------------------|-------|
| F1 | 8/27 (土) 13:30～15:00                | 地域の人々が今に守り伝えた奈良・平安時代の古写経<br>～小川八幡神社大般若経の世界～ |   | 東京大学史料編纂所<br>教授  | 山口英男氏 |
| F2 | 9/10 (土) 13:30～15:00<br>[講師リモート講座]  | 明治太政官文書研究と維新政治史                             |   | 東京大学史料編纂所<br>教授  | 箱石大氏  |
| F3 | 9/24 (土) 13:30～15:00<br>[講師リモート講座]  | 賀茂別雷神社の神主たちの見た中世京都                          |   | 東京大学史料編纂所<br>准教授 | 遠藤珠紀氏 |
| F4 | 10/8 (土) 13:30～15:00<br>[講師リモート講座]  | 関税と領事の前史<br>～オランダ商館長日記から外交の世界史を問う～          |   | 東京大学史料編纂所<br>教授  | 松方冬子氏 |
| F5 | 10/22 (土) 13:30～15:00<br>[講師リモート講座] | 長篠合戦図屏風を読む                                  |   | 東京大学史料編纂所<br>准教授 | 金子拓氏  |



**F1** 今回は、和歌山県所在・小川八幡神社の今はなき神宮寺において、室町時代に収集された大般若経がテーマです。全600巻からなり、全てが揃うことで、安寧や功德がもたらされると考えられてきた大般若経。奈良時代から室町時代にかけて各所で写経されたものを収集した同神社の経典は、講師いわく、「重要文化財や国宝級の価値を持つ」そうです。各写経を紐解けば、制作された背景や各時代の社会集団や人間のつながりをも示す貴重な史料になるとのこと。また、良好な状態で現存しているのは、集落の人々が連綿と祭祀を継ぎ、この中で用いてきた証。史料がもつ奥深さとこれを研究する魅力に満ちた興味尽きない講座でした。

<本講座のみ、講師が会場に來所しての対面形式講座となりました>

**F2** 「明治太政官文書」とは、1867年の王政復古政変による新政府樹立から1885年の内閣制成立までにおける政府文書があたるとの定義が講師から示されました。そして、これら公文書の生成・蓄積の主体として、目まぐるしく変遷を遂げた中央政府官制について、つぶさな紹介がなされ、受講者は歴史事項について確認しつつ新たな学びを得ていました。また、維新政府による文書管理システムの革新が、現代のこれへとつながる契機であったとの内容が、大変興味深かったようです（具体的には、公文書用紙の変化やハンコ行政について等）。公文書という視点から、歴史的な国家体制の大転換について学ぶことのできた学び多き講座でした。

**F3** 賀茂別雷神社は、京都市北区所在・通称「上賀茂神社」で、毎年5月の祭礼「葵祭」でも知られる京を代表する神社です。講師は、興味深い学びに資する記事があることや当時の政治・習俗にふれてもらえるとの観点から、今回の題材に同神社文書を選ばれ、中でも鎌倉時代後期に書かれた6点の史料から構成される『賀茂神主経久記』を取り上げました。当時の賀茂社や周辺の出来事をよく伝える記録であり、その一つ『賀茂旧記』は承久の乱について京都側の記録として残された貴重な史料であるそうで、話題の大河ドラマでも描かれた戦乱についてのタイムリーな解説も相まって、受講者は興味深く講師の話に聞き入っていました。

**F4** 講師は、2020年度から2024年度にかけて、近世から近代の通説として語られてきた外交史について、他地域の比較を通して新たな世界史像を再構築しようとする「外交史」プロジェクトに取り組みされています。本講では、「鎖国」以降の日本における西洋諸国との外交をテーマに扱い、これを紐解く鍵としてオランダ商館長日記に着目し、最新の研究内容を披露されました。関税の前史として贈物が将軍や幕府高官に献上されていた点、役人ではない商人が外交官的ステータスで領事を務めた点、西洋上位の外交イメージを覆す強かな外交が幕府との間で展開していた点等、専門的知見にあふれた講座は、受講者に目から鱗となる学びを供しました。

**F5** 信長の鉄砲戦術「三段撃ち」は実際にはなかったなど、定説を覆す新説が続々と注目される「長篠合戦」。講師はこれを描いた屏風図を本講のテーマに据え、絵画作品を「歴史的、に読み解いた分析成果を講座の中で次々に披露されました。誰しもが歴史の授業等で見たことのある本屏風図が、元は一双の片隻であること、数多くの写本が存在する意外性、その多くの祖型は成瀬家本であること、成瀬家本の制作及び他家の写本制作における武家ならではの事情、各所における細部の描かれ方の違い等、史料文を片手に屏風図から歴史を読み解く展開となった本講は、歴史の学びにおける多角的な手法と楽しさを感じさせてくれる講座でした。